

第三章 その他

第1節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施している。

(1) 日時 平成27年10月18日(日) 10時～15時

(2) 主催 おおつ健康フェスティバル実行委員会

(3) 場所 明日都浜大津

(4) 内容

- ・健康ウォーク
- ・式典、健康トーク、健康スタンプラリー
- ・ステージイベント
セイン カミュのヘルシートーク in 大津 出演：セイン カミュ
- ・事業内容
生活習慣病予防、糖尿病予防、歯の健康フェア、薬の相談、CKD啓発
体力測定、骨密度測定、血管年齢体験、介護予防、肺のチカラ測定、足の健康
マッサージ体験、自助具展示、健康フードの展示、栄養相談、食育推進の啓発
手洗いチェック、AED体験、健康入浴啓発



健康おおつ21シンボルマーク
おおつ げんき丸

2 研究報告

タイトル	退院支援における病院と介護支援専門員の連携の現状と課題 (第2報)
報告学会名	滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健総務課 坂口 和代
<p><概要></p> <p>大津市では平成26年度に国のモデル事業である都道府県医療介護連携支援実証事業に参加し、市内全病院及び全ケアマネに協力を呼びかけ、病院とケアマネとの入退院支援ルールを策定し運用を開始した。</p> <p>運用開始前後の連携状況についてケアマネへの調査の結果から見えた現状と課題について報告した。</p> <p>平成26年6月の入退院支援ルール策定協議開始前と比較すると、入院時のケアマネから病院への情報提供実施率が24.7%増加、退院時の病院からケアマネに対する情報提供実施率は23.1%増加した。評価時期は入退院支援ルールの運用開始から2ヶ月程度の時期であることから、入退院支援ルールの浸透による成果と言うよりは、入退院支援ルールの策定プロセスにおいて市内全ケアマネ及び病院の看護部局及び地域連携関係者が共に協議を繰り返し作り上げたことが、連携の基盤を作ってきたものと考えられる。</p> <p>前回の調査においては、「情報提供のもれが生じる背景にはルールの不足と両者のコミュニケーション不足が大きな要因」と考察していたが、この点について、効果があったと考える。</p> <p>また、双方共に成果を実感しており、ケアマネ、病院看護師全体への浸透を図る必要性を感じていた。</p> <p>入退院支援ルールの運用を開始し、病院関係者及びケアマネ間の連携、相互理解については一定の成果を挙げているが、患者の入退院支援の質の面からの評価が不十分である。今後は、連携状況に関する評価に加え、患者にとっての入退院支援に関する評価指標、評価方法について検討していく必要がある。</p>	

タイトル	大気質モデルと発見的探索法を用いた大気環境モニタリングネットワークの最適化手法の開発
報告学会名	大気環境学会年会
発表者名	衛生課 荒木 真
<p><概要></p> <p>モニタリングネットワークの最適化では観測値を用いることが多いが、これはネットワークの十分な代表性を前提としている。従って、地点数が少ない場合や偏りが大きい場合には適用が困難であった。そこで、大気質モデルを用いたネットワークの最適化について検討し、また大域的探索能力に優れた遺伝的アルゴリズムと局所探索能力に優れた焼きなまし法を組み合わせたハイブリッド型のアルゴリズムを開発し評価した。開発したハイブリッド型アルゴリズムは高い探索能力と安定性を持ち、得られた最適解は十分な空間代表制を持っていることが確認された。</p>	

タイトル	Spatio-temporal kriging 法による大気汚染物質の空間分布推定手法
報告学会名	大気環境学会年会
発表者名	衛生課 荒木 真
<p><概要></p> <p>大気汚染物質の測定データは緯度、経度、時刻で表される3次元データであるが、3次元データとして最大限に活用した例は限定的である。そこで、spatio-temporal (3D) kriging 法を1時間値データに適用して濃度分布推定を行い、通常のspatial kriging (2D) と比較することで、その特徴や優位性を検証した。</p> <p>予測精度 (R2 および RMSE) は 2D、3D とともに良好であり、差はほとんどなかった。また、2D では適切に予測できないケースであっても 3D では精度良く予測できた。3D の計算負荷は 2D よりも著しく高いが、有効な予測手法であることが分かった。</p>	

タイトル	LC-MS/MSによる鶏肉および鶏卵中の動物用医薬品一斉試験法の妥当性評価
報告学会名	滋賀県公衆衛生学会
発表者名	衛生課 大倉達哉
<p><概要></p> <p>動物用医薬品であるサルファ剤等27品目を試験対象として、QuEChERS法と固相抽出法を組み合わせたSTQ法とLC-MS/MSを用いた試験法の妥当性評価を実施した。</p> <p>その結果、試験法の妥当性が確認できたのは鶏肉で21化合物、鶏卵で25化合物であった。</p>	

タイトル	侵襲性髄膜炎菌感染症発生時の対応について
報告学会名	第46回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 小山 佳代子
<p><概要></p> <p>侵襲性髄膜炎菌感染症は、年間10～20例前後の発生報告がされており、劇症型の場合、痙攣や意識障害を呈し、死に至ることもある軽視できない疾患である。平成27年4月に本市保健所管内で発生した学生の症例に対し、学校関係者と連携して感染拡大防止のために行った取り組みについて報告した。</p> <p>今回の症例発生に伴う対応については、患者や患者を取り巻く状況に関し、学校や学校医と情報共有や協議を行い、速やかに接触者を把握し予防内服につなげることができたこと、特に学校や学校医の協力を得て、保護者に動揺を与えることなく情報提供ができたこと、予防内服の円滑な実施に向けての体制が短時間に整えられたことで、集団感染のリスクの高い学生寮における感染拡大の防止につなげることができた。</p> <p>今後においても、患者の早期発見・治療と共に積極的疫学調査の実施により、接触者を少しでも早く把握して感染予防の対策を確実に進めていくことが必要である。</p>	

タイトル	大津市「いのちをつなぐ相談員」派遣事業について(第3報)
報告学会名	第46回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 池田 守紀栄
<p><概要></p> <p>平成25年度より、自殺未遂者支援事業「いのちをつなぐ相談員派遣事業」を実施している。その結果をまとめ、考察した。</p> <p>【結果とまとめ】</p> <p>今回個別支援においては、平成27年10月末現在49事例の自殺未遂者の支援について相談員による支援を2,909回実施した。</p> <p>支援体制づくりとして、協力病院や教育部門との連携が進み、「大津市自殺未遂者支援相談対応の手引き」を作成し、関係機関や民生委員児童委員に配布し、研修会も実施した。</p> <p>今後の対応について、本人支援では、本音を語ってもらえる関係づくりや、支援を求める力を高めるための支援、また家族関係をアセスメントし必要な支援につなげることが重要である。</p> <p>さらに教育現場や地域の支援者のためにケア会議への参加や、支援者のストレスマネジメントとサポート体制が今後の課題である。</p>	